

信 毎 俳 壇

今井 聖 選

ボニー嬢撃たる前に夜濯す

よく見れば夜叉の顔なり赤蜻蛉

終戦日生きてる髭を雑に剃る

土に這ひ草引きし父今吾も

清流に糸垂るる女つくつくし

天折は還暦までや花すすぎ

皺の手で値引品選る涼夜かな

子も居らず爺も居らず稲穂村

洗硯の水で涼取る昼下がり

ヒロシマに千年先の蟬時雨

佳作

あの頃はみんな下駄履き盆踊

岳からの水汲み洗ふ灼けし盥

(長野市) 箕野なつ子

(高山村) 五味 力

(佐久市) 西田 和彦

(佐久市) 箕輪なつ江

(南相木村) 猿谷 秀

(上田市) 松浪 昭一

(飯綱町) 小林 紀子

(長野市) 武田 芳子

(須坂市) 牧野 勇水

(松本市) 伊藤 和夫

(箕輪町) 向山 政俊

(大町市) 原田 勝

選評

一句目、映画「俺たちに明日はない」はボニーとクライドという男女2人組の銀行強盗の実話に基づいたドラマで大ヒットした。最後2人とも警官に射殺される。夜濯ぎは作者の想像であろうがこう

いう嗜好での句作りもまた良しと思う。二句目、郷愁のテーマで描かれることの多い赤蜻蛉を意外性ある角度から捉えた。三句目、雑に剃られた髭に今生きていることの証しがある。

神野 紗希 選

夜のプール教員室の灯を映す

まだ若き星に老いゐて観る銀河

妻子奈昆師の句は不屈長崎忌

儉閑濟軍事郵便敗戦忌

手火花や少しくさの句ひせり

片目開け熱中症と答えけり

スローなジャズ流れ駅前カフェの朱夏

くする子に大きななすびもたせたり

眼下には葛の残花や瀬音して

初生りの無花果とくに掌に懐き

キノコ雲見ぬ世界また夏の夢

幾度でも不戦を誓ふ敗戦日

(長野市) 田中 重実

(箕輪町) 向山 政俊

(長野市) 竹村 昌男

(須坂市) 小山 重征

(佐久市) 町田ゆかり

(佐久市) 水間喜美子

(安曇野市) 小坂るり子

(長野市) 齋藤 俊幸

(佐久市) 佐藤 勝子

(長野市) 武田 芳子

(佐久市) 小山 嘉章

(軽井沢町) 高橋 達幸

選評

一句目、夜の学校の静謐、残業の灯が昏い水面にゆらめく。ここにも暮らしがある。二句目、46億年の地球も、広い宇宙の中ではまだまだ若い惑星か。星の寿命、人の寿命。はるかな宇宙の時間へ思

いをはせる。三句目、長崎の原爆投下で妻子を失った俳人・松尾あつゆきのルボ「いまぞ燃りつ」が刊行された。竹村さんは屋代東高校時代の教え子。師の句を次代へつなぐ一書を送り出している。

坊城 俊樹 選

天牛の触角ききと機械めく

ひと夏を鳴きつづけての命かな

敗戦日静かに過す戦中派

電柱の影に隠れて夏休

名月の戦の地には明るすぎ

仏壇に妻の育てた大西瓜

濡れ縁で授乳する嫁盆の月

捨桑山子伏してむさぼる眠りかな

新涼や防災無線声の澄む

台風の目の消えてより深眠り

六地蔵それぞれ違ふ草の花

鯨の直立したる極暑かな

(埼玉真美里町) 飯野佳代子

(長野市) 高木 敬介

(長野市) 青木 武明

(塩尻市) 古殿 林生

(上田市) 竹内 栄

(木島平村) 日台 敏夫

(下諏訪町) 中村 久

(上田市) 竹内 創造

(佐久市) 町田ゆかり

(中野市) 横田 徳子

(長野市) 宮沢 信博

(松本市) 伊藤 和夫

選評

一句目、確かにカミキリ虫の触角というものは不思議な形をしている。アンテナのようにも見える。それを機械と見立てた作者の目は確か。二句目、夏の季節を鳴く生物はいろいろある。しかしひと

夏を鳴き続けて死ぬのはどうしてもセミを思う。あの絶叫を思い出せば。三句目、余談だが私の父は戦地から生還した。だからと言って敗戦の日でもその事に触れることはなかった。昔の男はそうだった。